

平成16年度第1回地震予知研究協議会 議事録

日時 : 平成16年6月30日(木) 13:30～17:00

場所 : 地震研第2会議室

懇親会 : 17:30-19:30 場所 : 地震研 第3会議室

出席者の確認、オブサーバの紹介、新委員の紹介、資料の確認に続き議事録の確認が行われた。

1. 報告

(1) 協議会委員の交代と計画推進部会員について

山岡委員（企画部）より、配付資料にもとづき、施設長等の交代による協議会委員の紹介、および計画推進部会部会員の紹介があった。

(2) 地震研留置き経費決算について

山岡委員（企画部）より、資料にもとづき地震研留め置き経費の決算報告があった。

(3) スマトラ沖地震関連科振費等について

加藤委員より、資料にもとづき、科学技術振興調整費「スマトラ型巨大地震津波被害の軽減策」（平成17年度から19年度）および「災害軽減科学技術の国際連携への提言」（平成17年度）について説明があった。平成17年12月15-17日にワークショップ及びシンポジウムを開催する。

(4) 地震研究所国際地震火山研究推進室について

加藤委員（室長）より、平成17年度より地震研究所に設置された国際地震火山研究推進室について説明があった。国際的に著名な研究者、若手研究者の客員研究員の招聘などをおこなう。平成17年度から10年計画。招聘を希望する場合には加藤室長と連絡を取ってほしい。

(5) 新潟県中越地震成果報告について

山岡委員（企画部）より、専門家向けの成果報告シンポジウムを5月13日に長技術科学大学で開催したこと、また一般向けの講演会を5月14日に長岡市で開催したことを報告があった。

(6) 地震調査推進本部予算小委員会ヒアリングについて

山岡委員（企画部）より、推本予算委員会から大学がうけたヒアリングについて報告があった。運営費交付金の一部として地震予知にかけた予算額の調査を行った。

(7) 福岡県西方沖の地震について

山岡委員（企画部）より、3月20日に発生した福岡県西方沖地震に関する対応について報告があった。引き続き九州大学・清水委員より解析結果について報告があった。

(8) 平成16年度成果報告について

山岡委員（企画部）より、平成16年度成果報告書の編集について報告があった。平成16年度からは科学技術学術審議会測地学分科会地震部会観測研究計画推進委員会によって編集される。大学だけでなく国土地理院、気象庁、海上保安庁、情報通信研究機構、産総研、防災科研、海洋研究開発機構の成果もまとめて報告書を作る。

(9) 自己点検アンケートについて

山岡委員（企画部）より、自己点検のためのアンケートの結果について報告があった。これをふまえて、企画部から次回の協議会で提案をする予定。

2. 議題

(1) 平成17年度地震研留置き経費について

山岡委員（企画部）より平成17年度地震研留め置き経費の配分案について説明があり、原案どおり認められた。

(2) 全国微小地震活動データベースについて

海野委員代理（「地殻活動情報総合データベースの開発」計画推進部会部会長）より、資料にもとづき、全国微小地震データベースについて説明があった。大学の過去の読み取りデータについて電子的にファイルが出来ている時期から2000年までのデータでデータベースを作る、平成17年度10月をめどにデータベースを作成し、今年度末をめどに一般公開する、ということが提案され承認された。

(3) 緊急連絡網と通報訓練について

山岡委員（企画部）より、平成17年度緊急連絡網の確認と緊急連絡訓練の実施について提案があり、承認された。

(4) 平成17年度実施計画について

小菅オブザーバ（企画部）より、資料にもとづき、平成17年度実施計画について説明があった。下記のような意見が出された。

- ・以前の前兆把握中心の研究から、新計画では基礎的な研究にシフトした、もう一度ラジカルに予知を目指した研究を考えても良いのではないか。
- ・基礎研究といえども、その研究がどのように予知・予測にどのようにつながるかを意識することが重要である。
- ・計画の途中で新潟県中越地震などが発生している、このような自体に柔軟に対応できる計画であるべき。
- ・歪み集中帯への応力集中プロセスの研究といえども地震サイクルを念頭に置いてほしい。

議論の結果、計画は承認された。

休憩後、火山噴火予知研究協議会委員も参加し、地震・火山噴火予知研究協議会施設長懇談会が開催された。

平成18年度要求および今後の予知予算について意見交換がなされた。